奄美群島日本復帰60周年記念シンポジウム「沖永良部島シマの宝（地域資源）を活かす」が、12月19日、あしびの郷・ちなでありました。

シンポジウムでは、テレビ朝日コメンテーターの川村晃司氏による記念講演、関東学院大学非常勤講師の惠原義之氏による基調講演がありました。その後、元奄美群島広域事務組合事務局長の花井恒三氏をコーディネーターに、島内からの4名に川村氏、惠原氏を加えてパネルディスカッションがあり、復帰60周年を振り返りながら、これからの沖永良部について討論が繰り広げられました。一部抜粋して紹介します。

記念講演
「政治、経済から読む今後の日本～地域主権の立場から～」
川村 晃司 氏（テレビ朝日コメンテーター）

安倍総理が掲げる日本再興の原点は、地域再興である。自分たちが住んでいる町をどのようにして再興していくのか。それがなければ日本の再興はない。少子高齢化の中でどうやって地域の宝を発見し、それによって地域経済がどのように発展していくのか、そのためには何が必要かということになろうかと思います。その中で重要になってくるのが、民主党政権のときから現在の自民党政権でも言われている5つのKである。環境、健康、観光、交通、公共事業のKです。その5つのKをその地域のリーダーがバランスよく予算を獲得して、なおかつ効率的な事業を運営していくことができれば、そこには普段から自分たちが思っていないことでも、自分たちの足元に何か一つ宝物と言いますか、誇れる資源ができるものだと思います。よく資源は、有限であって無限ではないと言われますが、逆にどういう風に使ったらいいのか、世代が変わって、人材が育っていけば、資源は決して有限ではなくて、次から次に伝わっていくという意味においては、私は、無限的な広がりを持たせることができるのではないかと思っている。

確実に自分たちの地域で人口が少なくなっても、「ここに生まれてよかった」「この地域に住んでよかった」と感じられるような取り組みがあるはずである。それは、若者を引き寄せるようなPRではなく、これからは高齢化が進んでいくわけですから、お年寄りの皆さんに活躍していただかなければならない。そのためには医療を充実させなければなりません。そうなると若い医師が必要になる。お互いが交流人口として地域内に増えていくというようなことが考えられる。

私が取材したところで、長野県に（レタス栽培で日本一の）川上村というところがある。ここは人口が4千5百人。そのうちほとんどが農家である。ほとんど企業というものがない。その村の農家一戸当たりの平均年収は、2千5百万円くらいある。ここでは新しいレタスの品種を開発するなど、レタス栽培のあり方というものを村長がガラッと変えた。その日のレタスの値段など、農業政策の発信をケーブルテレビをとおして全戸にお知らせをしている。また、村営バスをそのまま走らせると赤字になるので、スクールバスとドッキングさせた。それでも赤字がでるので、霞ケ関にかけあって特別に補助金を引き出させたこともあった。これは、リーダーシップをどういう風に使うかという意味では、非常に参考になるのではないか。

今回、奄美振興の予算が交付金化されました。どのような配分になるか分からないが、自由な使い道となった交付金を、ほかの地域よりも活かした使い方をしていただきたい。